

平成 25 年度 法科大学院（法務研究科）入学試験

小論文問題紙

B日程

平成 25 年 2 月 23 日

10 : 00 ~ 12 : 00 (120 分)

(200 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 小論文の問題紙は 1 ページから 3 ページである。
3. 解答用紙は、設問 1、設問 2、設問 3 の 3 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 3 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

次の文を読んで設問に答えて下さい。

経済協力開発機構（OECD）は2002年7月、「情報システムおよびネットワークのセキュリティのためのガイドライン」を10年ぶりに改定し、そのサブタイトルとして「セキュリティ文化の普及に向けて」という表現を採用した。ガイドラインの適用対象が従来の「公的、私的セクター」から「政府、企業、その他の組織、および個人ユーザー」に変わり、「個人ユーザー」が登場したのも特徴の一つである。インターネットの普及に伴い、セキュリティが「新しい情報社会すべての参加者」にとっての緊急課題となったとの認識が示されている。

個人の安全から国家の安全保障に至るまで、セキュリティを考えなければならない領域は社会のあらゆる分野に及ぶが、とくに情報がメディアを超え自由に流通するIT社会の「情報セキュリティ」は、まさに私たち一人ひとりが真摯に取り組むべき課題である。セキュリティの専門家 B. シュナイアーは、セキュリティ問題は次の5段階評価に沿って考えるのが有効だと述べている。

1. 守るべきものは何か
2. それほどのようなリスクにさらされているのか
3. セキュリティ対策によってリスクをどれだけ軽減できるか
4. セキュリティ対策によって、どのようなリスクがもたらされるのか
5. 対策にはどれだけのコストと、どのようなトレードオフが付随するか

セキュリティの基本は、シュナイアーが述べるように「トレードオフ」にあると言える。トレードオフとは、交換あるいは交換条件を意味するが、「何かを得るために別の何かを差し出すこと」と理解してもよいだろう。

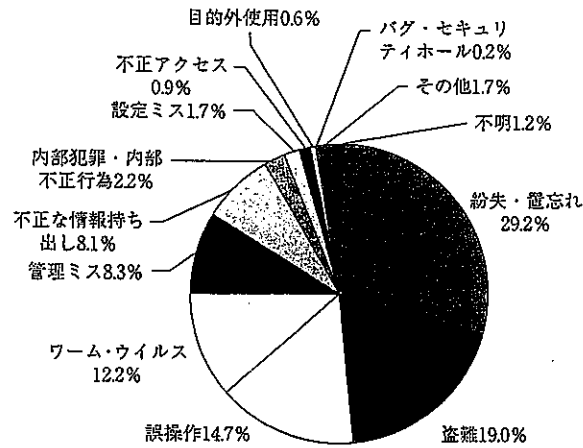
情報セキュリティにしろ、旅の安全にしろ、セキュリティ対策においては、自分が何を守りたいのかをはっきりさせ、何をあきらめ何を守るのかを決めなければならない。なぜなら、コストのかからないセキュリティはないからである。

設問 1

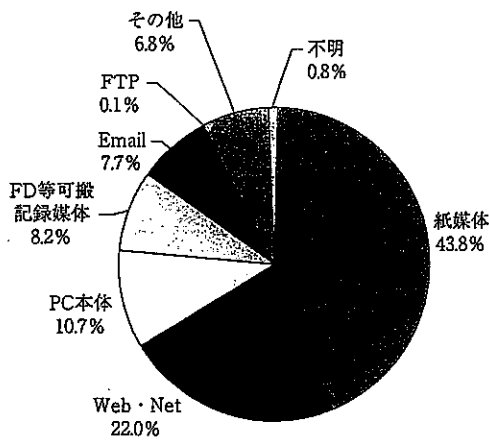
警察庁の調べでは、国内における2006年度の交通事故死者は6352人だった。この数字は、たとえば、300人乗りの大型旅客機が年21回、つまり月に2回ほど墜落し、その全員が死亡するのとほぼ同じである。それほどの頻度で航空機事故が起これば、航空業界だけでなく社会がパニックに陥ると思われるが、交通事故の場合は、なぜそれほど問題とならないのだろうか。航空機事故と交通事故の違いを論じて下さい。（50点）

設問 2

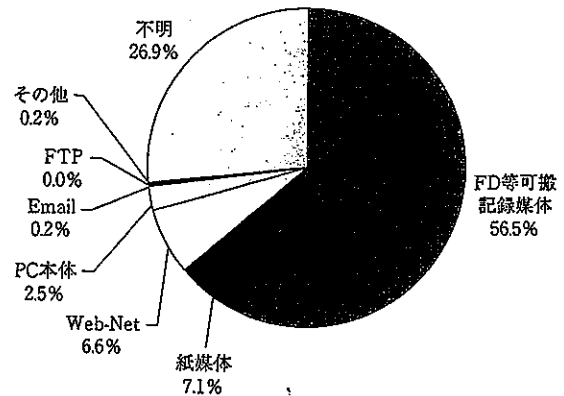
独立行政法人情報処理推進機構（IPA）がまとめた「情報セキュリティ白書2007」は、2006年の情報セキュリティ動向を「脅威がどんどん見えなくなっている」と分析し、情報漏洩事故が増えていると指摘している。また、NPO日本ネットワークセキュリティ協会の「2006年情報セキュリティインシデントに関する調査報告書」には、情報漏洩に関するデータが示されている。



グラフ1 漏洩原因比率【件数】



グラフ2 漏洩経路（媒体）比率【件数】



グラフ3 漏洩経路（媒体）比率【人数】

この3つのグラフに基づいて、情報漏洩に関する問題点を指摘し、解決策を論じてください。（70点）

設問3

子どもの通学時の安全を確保するために、GPS携帯、あるいはGPS端末を持たせる学校が多くなっている。登下校の時間を記録できるだけでなく、途中の経路も明らかになるため、不慮の事故に備えることができるからである。

一方、2007年8月のニューヨーク・ポスト紙によれば、ニューヨーク市の学校職員として21年間勤めてきた人物が、貸与されたGPS携帯で5か月にわたり勤務状況を調べられた結果、勤務（8時から15時30分まで）を早めに切り上げていたとして解雇された。アメリカでは、コネティカットとデルウェアの州を除き、雇用者に前もって通告せず素行を追跡しても条例上問題はない。

GPS携帯や端末の所持を生徒や雇用者に義務づけることに関して、あなたはどのように考えますか。義務づけをすべきと考えるか、すべきではないと考えるかについて、立場を決め、なぜその立場をとるのかを論証してください。論証においては、問題文にあるシュナイアーの観点を参考にするとともに、考えられる反対意見を検討し自説を擁護してください。

(80点)

(問題文および設問は『情報社会のリテラシー』(矢野直明・林紘一郎、産業図書、2008年を参考にした。)